

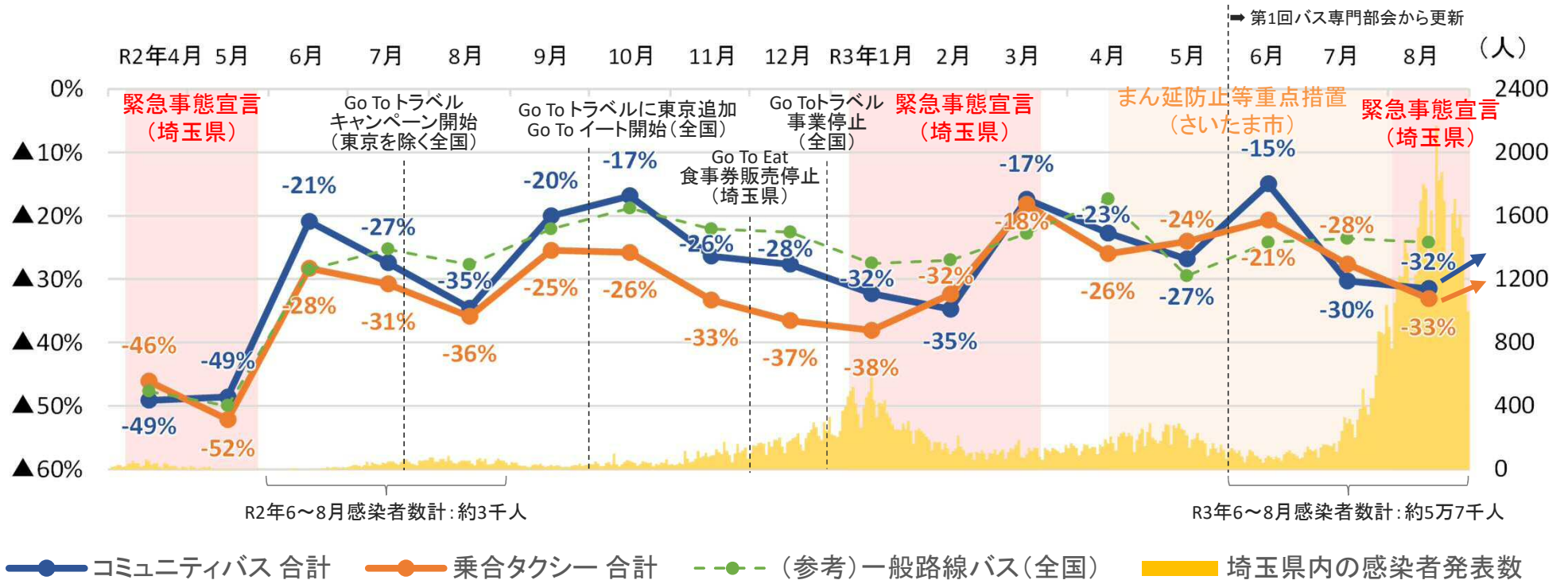
コミュニティバス等の利用状況について

資料2

1. 新型コロナウイルス感染症によるコミュニティバス等への影響

- ・ コミュニティバス、乗合タクシーの利用者数をR1年同月と比較すると、すべての月で減少している。
- ・ R3年6～8月（第1回バス専門部会から更新された期間）の利用状況は、R2年6～8月時点の傾向と同様である。
 具体的には、一般路線バス（全国）のR1年度からの減少割合は横ばいの傾向を示しており*1、コミュニティバス、乗合タクシーは、6月の減少割合が小さく、7～8月の減少割合が大きい状況である。
- ・ さいたま市では、R3年4月以降まん延防止等重点措置、R3年8月からは（埼玉県に）緊急事態宣言が発令されており、R3年6～8月に限ると、感染者数はR2年6～8月の約19倍となっている。
 一方で、コミュニティバス、乗合タクシーの利用はR2年と同等の水準で推移している。
 ⇒ 新たな生活様式への適用などにより、人々がコミュニティバス、乗合タクシーといった公共交通を利用することを過度に恐れず活動していると考えられる。
 ⇒ 現在さいたま市では、ワクチンの接種が進んでおり、2回目接種済みの市民は、71.5%（10月26日時点）であり、65歳以上に限ると90.1%となっている*2。
 今後のワクチン接種者の増加、感染者数の減少により、コミュニティバス等の利用が増えることが期待される。
 ※1 全国の数値には、緊急事態宣言等が発令されていない都道府県の事業者も含まれており、さいたま市に比べて緊急事態宣言等や感染者数の増減による影響を受けづらいと考えられる点には留意が必要。
 ※2 さいたま市ワクチン接種状況（ワクチンメーター）より

○利用者数の増減割合（R1年同月比）



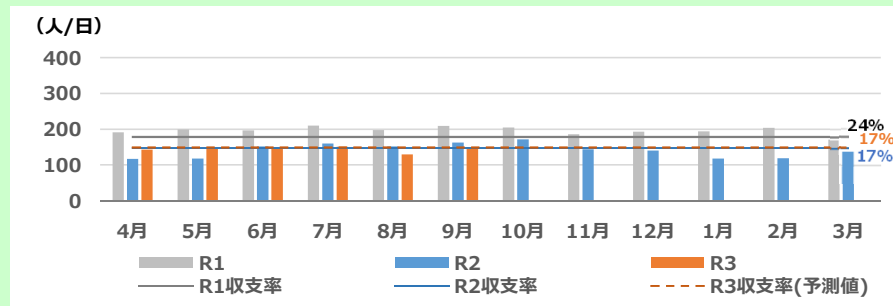
※「(参考)全国(一般路線バス)」は『新型コロナウイルス感染症による関係業界への影響について(令和3年8月31日時点まとめ)(令和3年9月、国土交通省)』を基に作成
 ※「埼玉県内の感染者発表数」はNHKが各自治体や公的機関の発表数値を基にまとめている「都道府県ごとの感染者数の推移」のデータを基に作成
 ※見沼区片柳西地区、北区吉野町地区は実証運行期間であるため、計算対象に含めていない。
 ※休日運行の利用者数は計算対象に含めていない。(西区・岩槻区:H31年1-3月、岩槻区・見沼区:R3年6月)
 ※並木・加倉地区のH31年1月の運行日数は3日のみであるため、R3年1月の値は並木・加倉地区を集計対象から除外している。

コミュニティバス等の利用状況について

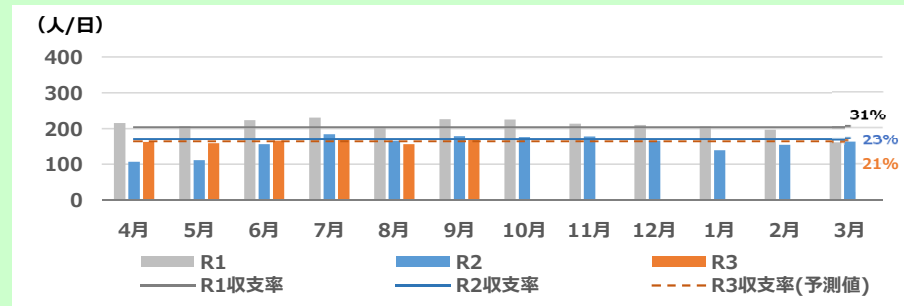
2. コミュニティバス等の利用者数の推移

コミュニティバスの利用者数を、H31年4月からR3年9月まで、月別に集計した。

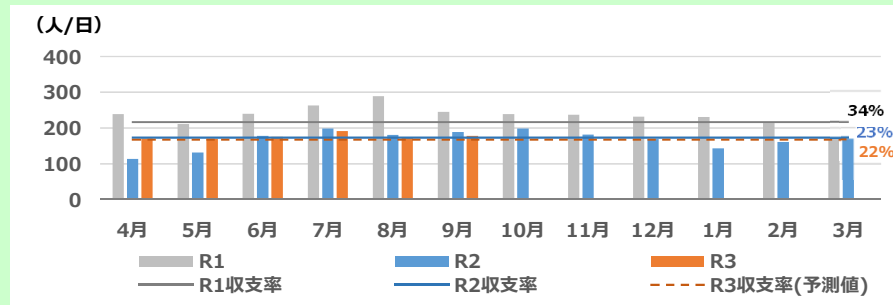
西区



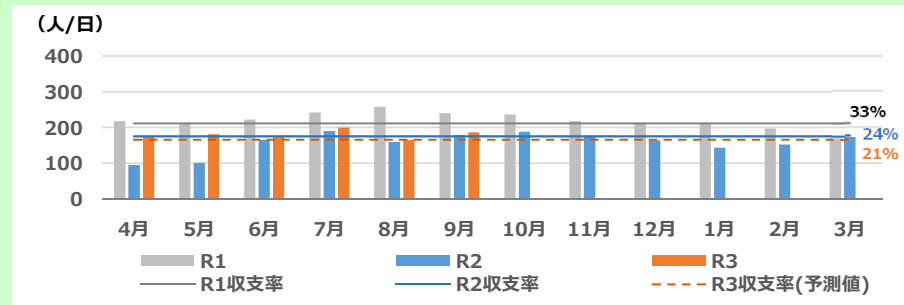
見沼区



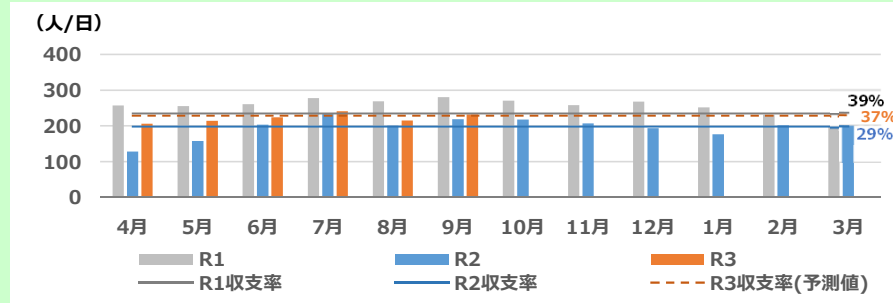
南区



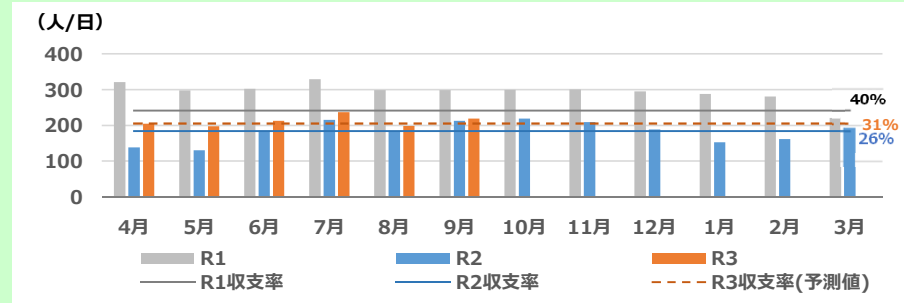
桜区



北区



岩槻区

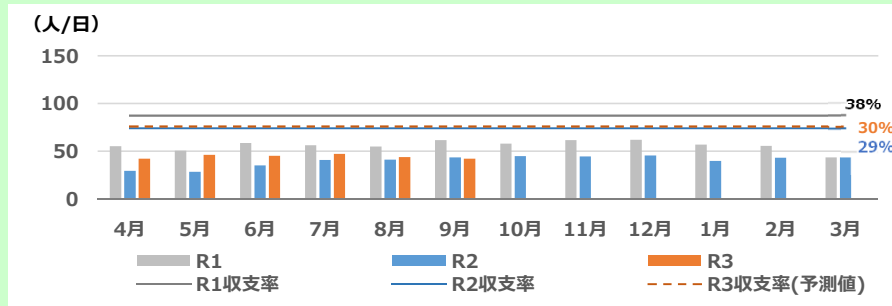


- いずれの路線でも、R3年度の利用者数には大きな変動はなく、横ばいで推移している。
- R2年度とR3年度を比較すると、桜区、北区、岩槻区は各月で増加傾向である一方、区の高齢者割合が高い西区や見沼区は、利用者が伸び悩んでいる。岩槻区は交通空白地区等が多いため、コミュニティバスが日常生活の足として利用されていると考えられる。
(R3.10.1時点の各区65歳以上割合：岩槻区30.3%、見沼区26.6%、西区26.3%、桜区24.1%、北区21.6%、南区19.6%)

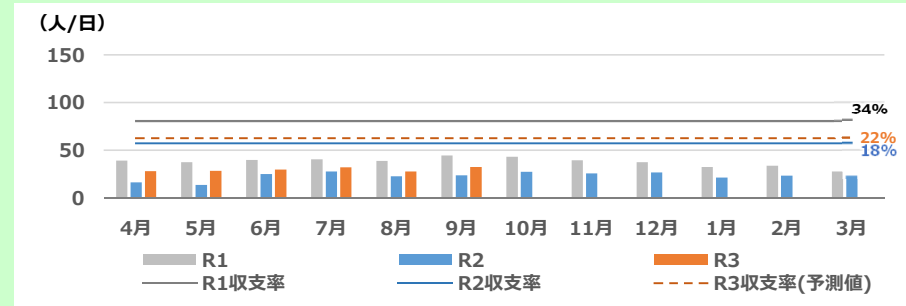
コミュニティバス等の利用状況について

乗合タクシーの利用者数を、H31年4月からR3年9月まで、月別に集計した。

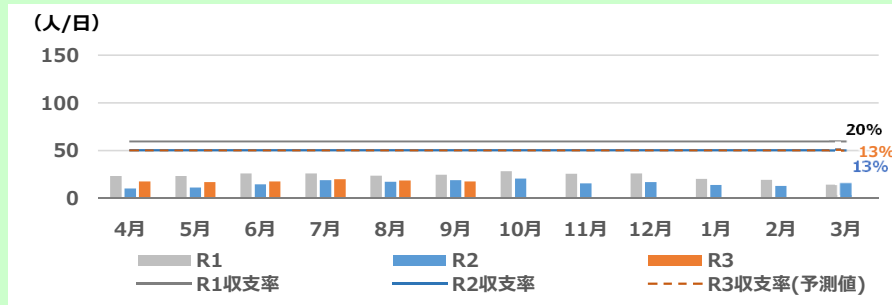
岩槻区和土地区レインボー号



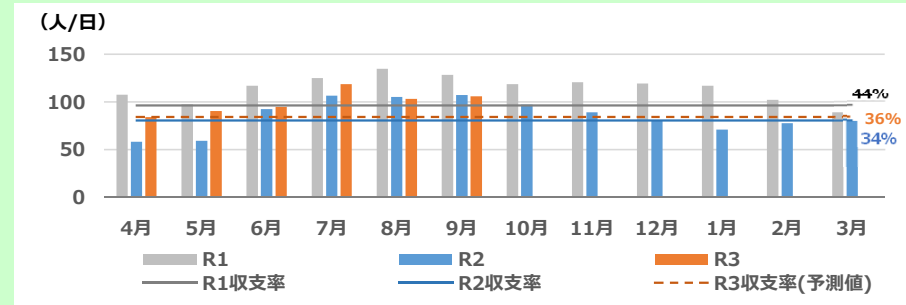
西区指扇地区あじさい号



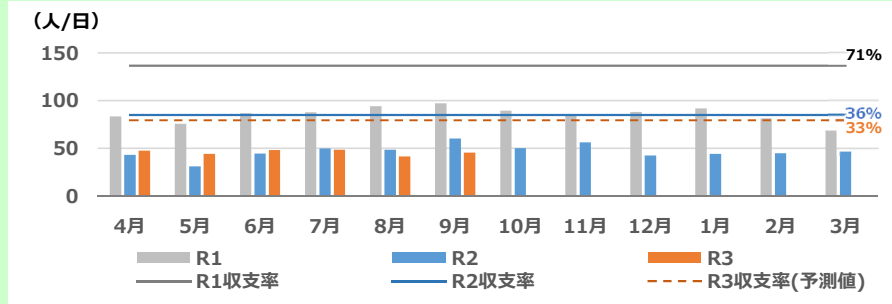
見沼区片柳西地区カワセミ号



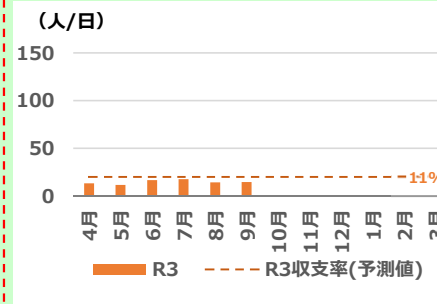
岩槻区並木・加倉地区らくらく号



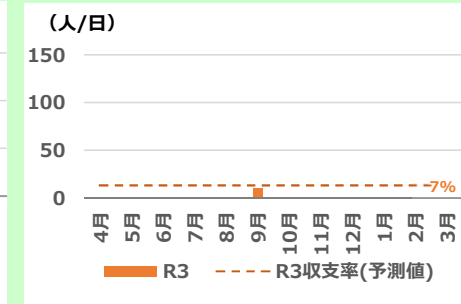
見沼区大砂土東地区みぬま号



北区吉野町地区宮原なかよし号



桜区大久保・中央区西与野地区むさし号



※R3年4月1日から実証運行開始

※R3年9月1日から実証運行開始

- 比較的若い世代の利用が多く、通勤等の時間帯に運行している岩槻区並木・加倉地区の利用者数は増加傾向である。
- 一方で、彩の国東大宮メディカルセンターへの利用者が多い見沼区大砂土東地区については、病院の通院回数を最低限としているためか、増加傾向には至っていない。
- 引き続き、地域組織との打合せの場で、コロナ禍における利用促進活動を支援していく予定。

コミュニティバス等の利用状況について

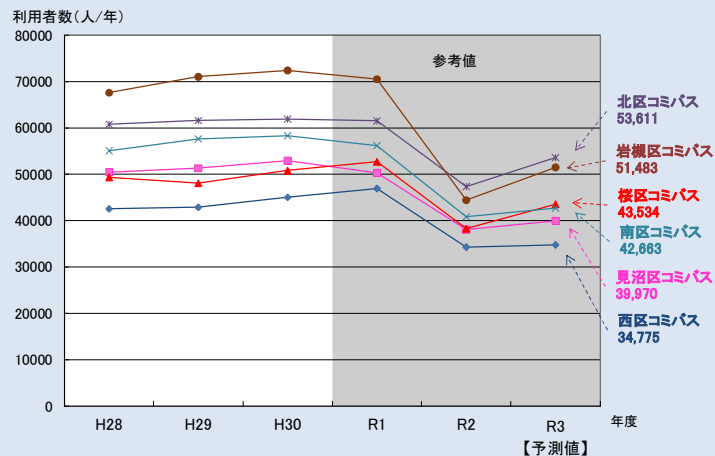
3. R3年度のコミュニティバス等の利用者数・収支率見込み

- R3年度におけるコミュニティバス等の運行継続・廃止等に関する判断について、R1年度、R2年度と同様に参考値とすることが、R3年8月の地域公共交通協議会において決定された。以下に、R3年度末までの見込みを報告する。
- R3年4月～9月までの実績から、R3年度の数値を予測した。

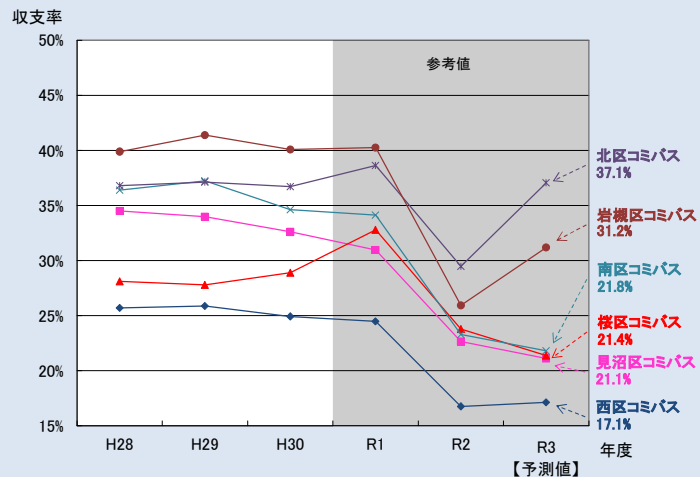
コミュニティバス

- 利用者数は、R2年度比較で、横ばいで推移～微増となる見込みである。
- 収支率は、R2年度比較で、見沼区・桜区・南区は微減、西区は横ばいで推移、北区・岩槻区は増加する見込みである。

① コミュニティバスの利用者数見込み



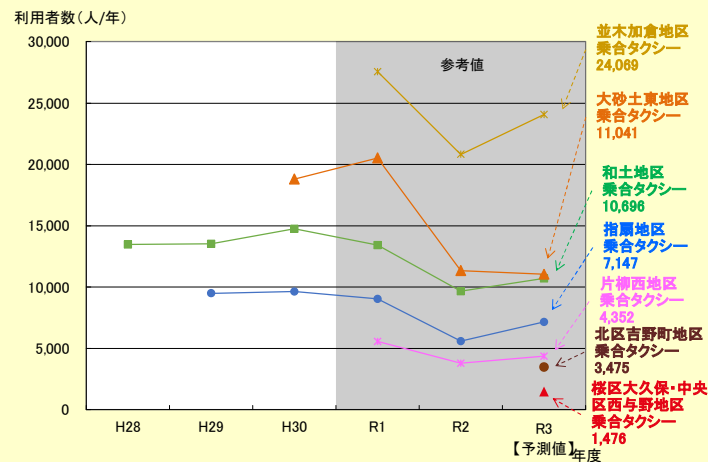
② コミュニティバスの収支率見込み



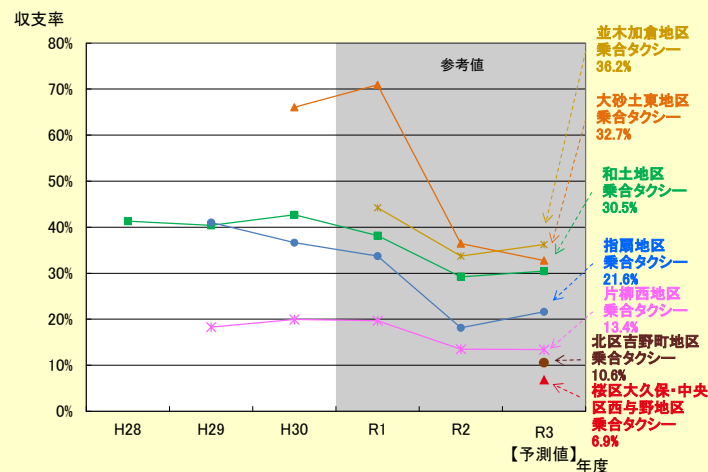
乗合タクシー

- 利用者数、収支率ともに、R2年度比較で、大砂土東地区で微減、片柳西地区で横ばい、並木加倉地区、和土地区、指扇地区で増加見込みである。
- R3年度より新規導入の北区吉野町地区と桜区大久保中央区西与野地区の利用低迷については、外出自粛により、利用し始めるきっかけが生まれていない事が要因として考えられる。

① 乗合タクシーの利用者数見込み



② 乗合タクシーの収支率見込み



※利用者数の見込みはR3年4～9月の平均利用者数を1年間分に拡大した値、収支率の見込みはR3年4月～9月のひと月あたりの平均収入をひと月あたりの経費の見込みで除した値である。